

【報道関係各位】

2018年12月12日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2019年 春の花粉飛散予測(第2報) “多かった前シーズン”よりは少ないが、広い範囲で例年より「やや多い」飛散量に 花粉シーズンは2月中旬に九州や四国、東海、関東地方の一部からスタート

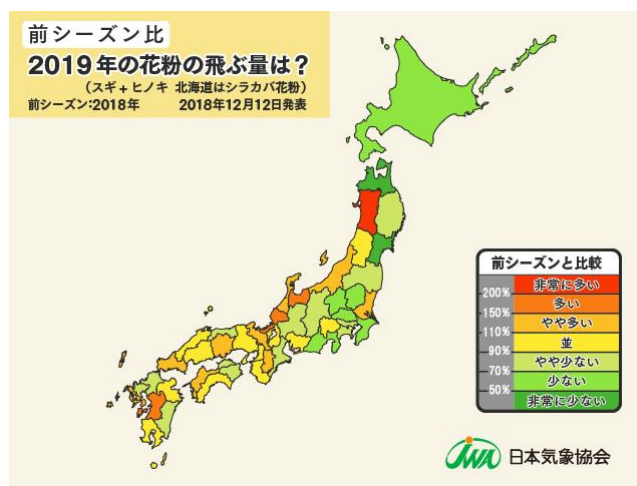
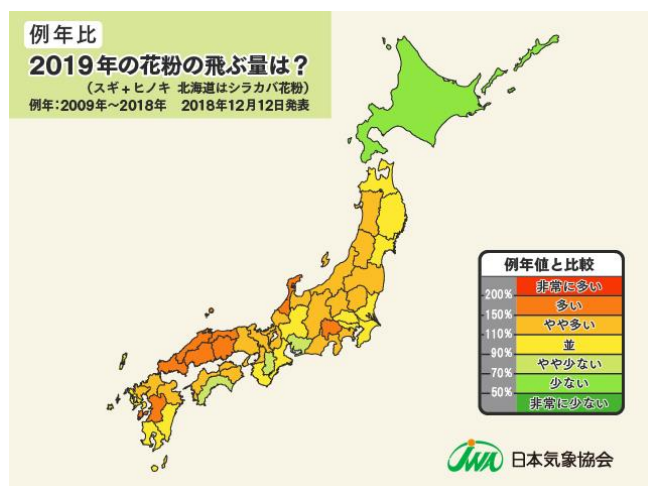
- ◆2019年 春の花粉飛散予測のポイント (2018年12月12日 発表)
- ・ 広い範囲で前シーズンより少なめだが、例年よりやや多い
 - ・ 飛散開始時期は西日本と東日本で例年より5日ほど遅い
 - ・ 飛散開始*前からわずかに飛び始めるため、早めの対策を

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、会長：石川 裕己）は、2018年12月12日（水）に全国・都道府県別の2019年春の花粉（スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ）飛散予測（第2報）を発表します。また、詳細な情報を、「2019年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

※飛散開始日：1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日

1. 2019年シーズンの花粉飛散傾向

2019年春の花粉飛散量は、例年比でみると、東北から近畿、九州はやや多い地方が多く、中国地方では多いでしょう。四国は例年並みとなりそうです。北海道は例年を下回るでしょう。一方で、前シーズンと比べると、北海道から関東甲信、東海は少ない傾向ですが、北陸ではやや多い見込みです。秋田県では前シーズンの飛散量が少なかったため、前シーズンと比べて「非常に多い」と予測しています。



東京都青梅市のスギ花芽の様子
(2018年11月19日撮影)

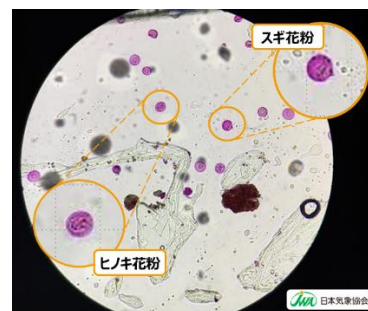


千葉県富里市のヒノキ花芽の様子
(2018年11月27日撮影)



京都市左京区のスギ花芽の様子
(2018年11月20日撮影)

前シーズンの花粉の飛散量は、全国的に例年よりも多くなりました。前シーズンの特徴として、ヒノキ花粉の飛散量が多い傾向があり、東京ではヒノキ花粉が過去10年で最も多く飛散するシーズンとなりました（例年比約4.9倍、2017年シーズン比約4倍の飛散量、日本気象協会の観測地点調べ）。今シーズンの予測に向けて花芽調査を行ったところ、ヒノキの花芽の生育が前シーズンほどではないことが分かりました。このため、今年のヒノキ花粉の飛散量は前シーズンより少ないと予測します。



顕微鏡で撮影した花粉（イメージ）

2. 各地域の2019年シーズンの花粉飛散傾向

地方	飛散量				2018年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない	60%	少ない	50%	平年並	かなり多い	少ない
東北	やや多い	120%	やや少ない	70%	かなり高い	平年並	平年並
関東甲信	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
北陸	やや多い	140%	やや多い	140%	かなり高い	平年並	かなり多い
東海	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
近畿	やや多い	110%	前シーズン並	100%	かなり高い	かなり多い	かなり多い
中国	多い	160%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
四国	例年並	100%	前シーズン並	90%	かなり高い	かなり多い	多い
九州	やや多い	130%	前シーズン並	100%	高い	多い	平年並

【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン（例年）の200%以上
多い	: 前シーズン（例年）の150%以上200%未満
やや多い	: 前シーズン（例年）の110%以上150%未満
前シーズン（例年）並	: 前シーズン（例年）の90%以上110%未満
やや少ない	: 前シーズン（例年）の70%以上90%未満
少ない	: 前シーズン（例年）の50%以上70%未満
非常に少ない	: 前シーズン（例年）の50%未満

前シーズン	: 2018年シーズン飛散量
例年	: 過去10年(2009～2018年)の平均値

【2018年夏の気象に関する言葉の説明】

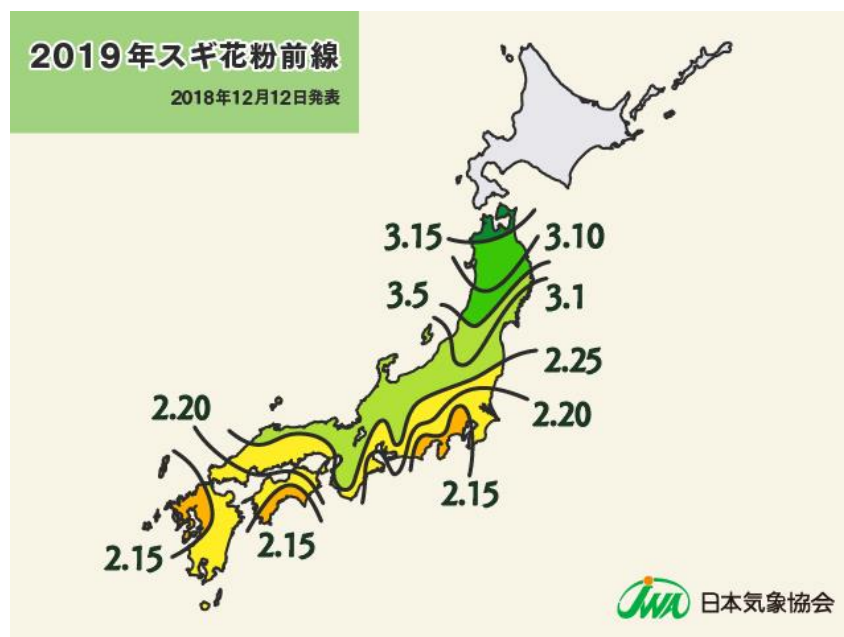
平年	: 1981～2010年の平均値
----	------------------

3. 2019年シーズンの飛散開始時期

スギ花粉の飛散開始は、関東から近畿、中国、四国地方、九州で、例年より5日ほど遅くなるでしょう。2月中旬に九州や四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンがスタートする見込みです。

2019年の1月から2月は、気温が北日本ではほぼ平年並み、東日本は平年並みか高く、西日本は平年より高くなる予想です。冬に気温が高めで経過する見込みのため、スギの雄花の休眠打破が遅れ2019年春のスギ花粉の飛散開始は、東日本と西日本で例年より遅くなるでしょう。

スギ花粉は、飛散開始と認められる前から、わずかな量が飛び始めます。2月中旬に飛散開始が予測される地域では、1月のうちから花粉対策を始めるとよいでしょう。



4. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6月～8月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が増えるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

